



(平成 年 月 日)

博物館学習シート (狭山茶)

中学生用：お茶の学習

このシートは、博物館の展示のうち歴史の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに使います。疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べて見ましょう。鉛筆と下敷きを用意しましょう。(ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。)

1. ここ入間の地で、それまで途絶えていた製茶業が復興されたのはいつごろでしょうか。



2. 江戸時代末期、日本が開港すると、入間のお茶はどここの港から、どここの国へ輸出されたのでしょうか。

港 =

外国 =

茶どころ入間市

3. 下の5枚の写真は、「狭山茶のできるまで」の工程です。それぞれ、何をしているのか、写真に解説を加えよう。



()



()



()



()



()

ちょっと一息

さやまがいしゃ 狭山会社

明治時代になると、日本茶は生糸とともに外国への重要な輸出品となっていきました。狭山茶は品質も良く、生産地が輸出港の横浜に近いという便利さもあって商人たちに買い求められ、お茶の栽培や生産が盛んとなっていきました。明治8年(1875)7月、地元の繁田満義(現在の入間市宮前町)ら有力者が相談して「狭山会社」が設立されました。この会社は、外国商人の手助けを受けずに日本人だけでつくった会社で、しかも狭山茶を直接アメリカに輸出して、ニューヨークにいる日本人の商人がアメリカ市民に販売するというものでした。日本人だけでつくったお茶の輸出会社として「狭山会社」は、日本で最初のものでした。また、この会社がつくられたことによって、それ以前に「八茶」^{はちぢや}、「関東の茶」^{かんとうのちや}、「田舎の茶」などいろいろな呼び方をしてきた狭山茶の名前が、「狭山茶」という名前で統一されていったのです。

この会社設立の目的は、

- 1、狭山茶の輸出を盛んにして、新しく誕生した国を豊かにするため。
- 2、不良品のお茶をつかって不正に輸出している業者を排除して、外国の国々に信用される体制をつくるため。
- 3、お茶農家の収入を高めるため。

などです。

(ラベルの解説)

アメリカのニューヨークで、1ポンド(453.6g)入る狭山茶の袋に貼っていたものです。アメリカの市民はこのラベルを見てどんなことを思ったのでしょうか。

かさねてひらくちやじょうのひ 重 関 茶 場 碑

この碑は狭山茶の復興を記念して建てられたもので、狭山茶産地に建っている碑で最も古いものです。

「重て関く」とは、狭山茶の歴史のページを二回開くという意味です。つまり、一度目のページは、狭山茶の産地がつくられるもとになった今から500年ほど前につくられていた「武蔵河越茶」^{むさしかわごえちや}などのことです。そして、二度目のページは戦乱などによってすたれてしまった武蔵河越茶などを、新しいお茶をつくる技術(煎茶をつくる方法)を用いて復興に成功したことです。この碑には、日本茶の歴史からはじまり、狭山茶の歴史、新しい茶づくりに挑戦した人々の苦勞と成功のこと、お茶の効能、お茶をつくる人々への教訓などが刻まれています。

見学を終えて

・博物館の見学をしてあなたは、どの展示物が一番印象に残りましたか。

・それはどの時代
ですか

・印象に残った理由
は何ですか。

・見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか。

ある ない

・それはどのような
ことですか

中学校 年 組 名前